

## 出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

### 今 期（2011年4－6月）の 概 要

**調査期間** 平成23年7月1日～7月15日

**対象企業** 調査対象企業数30社 回答率27社（回答率90.0%）  
内訳：建設業4社、製造業6社、卸売業1社、小売業9社、サービス業7社

#### 概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で $\Delta 40.0$ （前期調査 $\Delta 42.3$ ）、前年同期比でも $\Delta 38.5$ （前期調査 $\Delta 55.6$ ）と、ともにマイナス幅が縮小しています。来期業況見通しDIも、今期比で $\Delta 38.5$ （前期調査 $\Delta 55.6$ ）とマイナス幅が縮小しています。

○全業種の今期売上DIは、前期比で $\Delta 34.6$ （前期調査 $\Delta 63.0$ ）とマイナス幅が半減しています。前年同期比では $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と同水準であったものの、来期売上見通しDIは今期比で $\Delta 48.1$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が縮小しています。

#### 業種別景況調査の主要DI

##### 1、建設業

- ・今期業況DIが、前期比で $\Delta 50.0$ （前期調査0.0）とマイナスに転じており、前年同期比では $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）とマイナス幅がやや増加しています。また、今期売上DIは前期比で $\Delta 75.0$ （前期調査0.0）と大幅に落ち込みましたが、前年同期比では $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と反対にマイナス幅が縮小しています。

- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 75.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が拡大しており、売上見通し DI も $\Delta 75.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と同様に拡大しています。

## 2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）と同水準で推移しましたが、前年同期比では $16.7$ （前期調査 $\Delta 16.7$ ）と一転してマイナスからプラスに回復しています。また、売上 DI で前期比 $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 66.7$ ）、前年同期比でも $16.7$ （前期調査 $\Delta 16.7$ ）と改善が見られ、震災前の22年度第3四半期調査時の水準に戻っています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 66.7$ ）とマイナス幅が半減しましたが、売上見通し DI では今期比で $\Delta 66.7$ （前期調査 $\Delta 66.7$ ）と同水準であり、先行きへの不安は払拭されていないようです。

## 3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で $100.0$ （前期調査 $0.0$ ）とプラス幅が拡大しましたが、前年同期比では $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）と同水準で推移しています。売上 DI では、前期比で $100.0$ （ $\Delta 100.0$ ）と一転してプラス幅が大きく拡大しましたが、前年同期比では $\Delta 100.0$ （前期調査 $100.0$ ）と反比例する結果となりました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では $100.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）、売上見通し DI でも今期比で $100.0$ （前期調査 $0.0$ ）と、ともにプラス幅を拡大するなど、需要の停滞や受注の減少による業況の悪化が回復するのではないかと期待されています。

## 4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 62.5$ （前期調査 $\Delta 75.0$ ）とマイナス幅が縮小しましたが、前年同期比では $\Delta 88.9$ （前期調査 $\Delta 77.8$ ）とマイナス幅が拡大しています。売上 DI は、前期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 87.5$ ）とマイナス幅が半分以下に縮小しましたが、前年同期比では $\Delta 88.9$ （前期調査 $\Delta 77.8$ ）とマイナス幅が拡大しました。「地震の影響による欠品により売上が伸び悩んでいる」という声もありましたが、前期よりは上向きになっているようです。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 44.4$ （前期調査 $\Delta 37.5$ ）とわずかながらマイナス幅が拡大しましたが、売上見通し DI では $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅がやや縮小しています。6月末になってようやく売上回復の見込みが出てきているようです。

## 5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が、前期比で△33.3（前期調査△42.9）とマイナス幅の縮小はわずかでしたが、前年同期比では△14.3（前期調査△71.4）と大きく縮小しています。売上 DI は前期比で△28.6（前期調査△62.5）、前年同期比でも△57.1（前期調査△62.5）と、ともにマイナス幅が減少しています。依然として経営環境は厳しいものの、悪化に歯止めがかかることが予測されています。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で△33.3（前期調査△71.4）とマイナス幅が半減し、売上見通し DI でも今期比で△57.1（前期調査△62.5）と僅かながらマイナス幅を縮小しています。今後業況は若干緩和するものの引き続き厳しい状況を予測しています。

## 設備投資動向

### 1、今期設備投資

- |       |  |
|-------|--|
| 全業種   | 設備投資を実施した事業所の割合は25.0%（前期調査 14.3%）で、「OA機器」への投資が最も多く、42.9%となっています。 |
| 建設業   | 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。  |
| 製造業   | 実施割合が50.0%で、「建物」「機械・備品」「OA機器」が同率で並んでいます。                         |
| 卸売業   | 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。  |
| 小売業   | 実施割合が30.0%で、「機械・備品」「車両運搬具」「OA機器」が同率で並んでいます。                      |
| サービス業 | 実施割合が14.3%で、すべて「OA機器」となっています。                                    |

## 2、来期設備投資

- 全業種 設備投資を計画している事業所の割合は15.4%（前期調査20.7%）で、「機械・備品」「車両運搬具」「付帯施設」「OA機器」への投資が同率で並んでいます。
- 建設業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。
- 製造業 設備投資を計画している割合が33.3%で、「機械・備品」「付帯施設」が同率で並んでいます。
- 卸売業 設備投資を計画している割合が100.0%となっています。
- 小売業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。
- サービス業 設備投資を計画している割合が14.3%で、すべて「車両運搬具」となっています。

### 経営上の問題点

- 全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」が65.4%と、6割を超えています。第2位は「単価の低下・上昇難」、第3位は「店舗・機械・備品等設備の老朽化」となっています。
- 建設業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、100.0%となっています。
- 製造業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、33.3%となっています。

卸売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、100.0%となっています。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、77.8%と8割近くを占めています。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、50.0%と半数を占めています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。